★八王子中だより★

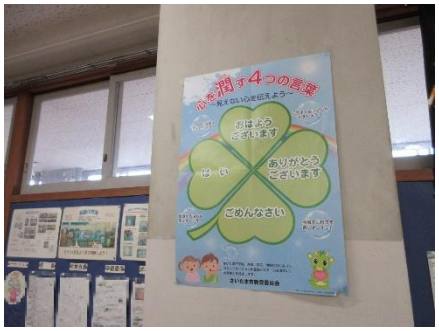
★学校教育目標　『 大志を抱け　ひとみ輝く　八中生 』
～ 賢く 豊かに 逞しく ～

★令和8年11月2日(月)　さいたま市立八王子中学校学校だより　11月号

★HP ｱﾄﾞﾚｽ http://hachioji-j.saitama-city.ed.jp/ （生徒の学校生活の様子等をHPにアップしています）

心を潤す言葉

校 長　酒井　和浩



１０月後半は合唱コンクール、つぼみの日、市駅伝大会など、大きな行事がたくさんありました。特に合唱コンクールでは、当日はもちろん、練習段階からも生徒がクラス一致団結し、一生懸命頑張る姿が見られました。また、たくさんの保護者や地域の方にも合唱コンクールを参観していただき、学校・家庭・地域が一緒に生徒の成長を見守っていくことができ、とてもうれしく思います。今後もよりよい連携ができるよう取り組んでまいります。ご協力のほどよろしくお願します。また、生徒にはこれらの取組を今後の学校生活に活かしていくことを期待しています。

私の地元は近年観光地として人気があり、昼夜問わず外国の方がたくさん街を歩いています。以前の話ですが、夜、私が帰宅している途中に海外の方から“Excuse me？”と声をかけられ、滞在予定のホテルまでの道のりを聞かれました。会話は英語で行いましたが、相手の海外の方は最後のお礼だけは日本語で「ありがとうございました」と伝えてきました。なぜ、彼らにとって外国語である日本語を使ったのでしょうか。もちろん簡単な日本語で覚えているからだと思いますが、あわせて、その国のネイティブの人（彼らから見て外国人である日本人）にきちんと感謝の気持ちを伝えたかったのではないかと私は感じました。“Thank you.”と言われるのもうれしいですが、自分の母国語である日本語で「ありがとうございます」と言われたことが、受け手としてより感謝の気持ちが伝わり、心が温かく感じられました。

話し言葉は自分の気持ちを伝える大切なツールです。人に見えない自分の気持ちを言葉に含んで伝えることは、相手の心をひきつけ、よいコミュニケーションをとることにつながります。そして、よいコミュニケーションが相手と心が通う人間関係の構築へとつながります。話し言葉はとても重要なツールであり、以前学校だよりでも書きましたが、真の気持ちを込めて伝えないと意味がありません。この出来事を通して、自分の気持ちを意識して相手と話をすることが大切だと改めて感じました。

さいたま市の学校では、１１月に「心を潤す４つの言葉」推進週間を設定しています。その趣旨は、各学校において、生徒・教職員・保護者・地域の方々が、積極的に気持ちのよいあいさつや返事、心をこめた素直な言葉を交わすことによって、１人ひとりの心が通う学校や地域づくりを目指すとなっています。心を潤す４つの言葉は「おはようございます」「ありがとうございます」「ごめんなさい」「はい」の４つとしていますが、どの言葉も、よいコミュニケーションをとるため、そして人間関係を円滑にするために必要な言葉です。また、「心を潤す言葉」を使い、人間関係を円滑にすることは、助け合いの精神にもつながります。人が困ったときに「大丈夫」や「どうしたの」など、一言声をかけることはその人にとって大きな力となり、例えばいじめや自殺、非行などの防止にもつながります。「心を潤す４つの言葉」はもちろんですが、それ以外のさりげない声掛けの言葉も相手の心を潤す言葉となり得ます。生徒にはぜひたくさんの人に、たくさんの気持ちのこもった「心を潤す言葉」を使ってほしいと思います。